

令和5年度第3回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録

日 時 令和5年11月30日（木）10:00～11:33

場 所 事務局第一会議室及びMicrosoft Teams 併用

出席者 [会議室] 坂井学長、黒川理事、柳澤理事、松田理事、中村理事、市川理事、
佐々木委員、利根委員、萩原委員、平本委員、山名委員
[Teams] 砂川委員、吉田委員

欠席者 真下委員

陪席者 [会議室] 山中監事、齋藤監事、川合副学長、川又副学長
[Teams] 田代副学長、伊藤副学長、

井口人文社会科学研究科長、井原経済学部長、堀田教育学部長、
石井理工学研究科長、長澤理学部長、重原工学部長

○ 議事に先立ち、本会議に吉田委員の紹介があった。また、学長から、真下委員が本会議を欠席する旨報告があった。

○ 令和5年度第2回議事要録の確認について（資料1）

令和5年度第2回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録（案）の確認が行われ、承認された。

※各事項における意見等は次のとおり（☆学外委員、△学内委員等）

○ 審議事項

1 国立大学法人埼玉大学役員報酬規則、国立大学法人埼玉大学教職員給与規則、国立大学法人埼玉大学教職員特定年俸制給与等規則等の一部改正について

松田理事から、資料2に基づき、国家公務員一般職の職員の給与に関する法律の一部改正等に伴い、所要の改正を行う旨について説明があり、審議の結果、承認された。

☆ 新規に教員等を採用した場合に、前職の給与は、採用時の給与に反映されるのか。
または年齢等に基づき、大学で個別に決めているのか。

△ 基本的には、国家公務員に準拠しており、学歴及び職歴を基に、換算率にあてはめて算出する。

☆ 日本国外から教員等を採用する場合であっても、海外の給与水準は考慮されないということか。

△ 基本的には、先ほど述べた方法により算出しているため、海外の給与水準は考慮されないこととなる。ただし、海外の優秀な研究者を採用できないという課題があるため、一部の大学では、特別な俸給表を用意している。ただし、今回の規則改正の対象は、学歴及び職歴に基づき算定する給与についてである。

☆ 国立大学法人から転任してきた場合には、前職の俸給表に準じて、採用時の給与を算定するのか。

△ 国立大学法人間の給与水準に大きな開きはないため、学歴及び職歴に基づき算定した際、結果的にそのようになる。

☆ 前職である国立大学法人にて特別昇給を受けた教員を採用した場合、その昇給分は採用時の給与に反映されないのか。

△ 特別昇給があった場合には、採用時の給与にも反映している。

△ 新たに採用する教員については、年俸制が適用され、業績に応じた給与が得られることとなる。

2 令和5年度学内補正予算について

松田理事から、資料3に基づき、令和5年度学内補正予算の概要及び年度当初予算からの主な増減要因についての説明があり、審議の結果、承認された。

3 学内予算によるプロジェクト事業について

松田理事から、資料4に基づき、令和5年度学内予算によるプロジェクト事業として、昨年度に引き続き、脱炭素化推進のための設備機器等の整備・更新等に取り組む旨説明があり、審議の結果、承認された。

☆ 今回掲げられているプロジェクト事業は、概算要求で採択されなかった事業であると思うが、いずれの事業を取り上げるかについては、学内で決定しているのか。

△ そのとおりであり、学内の施設環境マネジメント委員会にて整備計画を策定し、その計画に基づき進めている。

○ 報告事項

1 令和4年度計画自己評価書について

川又副学長から、資料5に基づき、令和4年度計画の実施状況及び評価指標の達成状況について説明があった。

☆ 令和4年度計画における主な優れた取組として掲げられている、「知事と学生の意見交換会」における政策提言に関して、今般行われた提言の中には、知事がすぐにも事業化を行いたいほど完成度が高いものがあったと報告を受けており、今後も期待している。

△ 学生にとっても貴重な機会であり、本学としても感謝している。過去5年間で行った提言の半分ほどが事業化に取り上げられているので、引き続き協力をお願いしたい。

☆ 人文社会科学研究科の社会人入学者が着実に増えているということであるが、修了生がどのように社会で活躍しているかまで把握しているのか。

△ 対象となる修了生は、元々が有職者であることから、詳細な調査は行っていないが、大学教員となる者や、著書を出版している者がいる旨把握している。

(吉田委員が途中退席)

○ その他

1 埼玉大学の広報について

川合副学長から、資料6に基づき、埼玉大学の広報・社会連携活動の現状及び今後の課題について報告があった。

☆ 報告を受けて感じたこととしては、次のとおりである。

- ・オンラインの記者レクチャーに取り組んでいるとのことだが、継続すれば成果が伴うと考える。
- ・記者懇談会に関して、各社の担当者と忌憚なく意見を言えるような関係性を構築することが重要である。
- ・教員著書の広報を行うことについては、著作の概要のみに留まらず、著作者のコメントは記載すべきである。
- ・各種SNSのフォロワー数がまだ少ないのが課題といえる。若い世代は、短時間で見終えることができる記事や動画を好むため、記事等を掲載する際には留意すべきである。
- ・報告事項で取り上げられていた、知事への政策提言はとても良い取り組みだが、他大学も同様の取り組みを始めているので、この点を意識すべきである。

△ 大変参考になる意見であるので、指摘を踏まえて取り組んでいきたい。

☆ 本学の研究成果に関する記事を小学生に見せると、強い興味を示している。このように、子供たちが将来やりたいこと等を見つけていけるような発信をしてもらいたい。

△ 星空観望会等の小中学生も対象としたイベント等も行っているため、これらを広報で取り上げていきたい。

2 埼玉大学の最近の動向について

学長から、本学卒業生が10月にモンテネグロ首相に就任したことについて報告があった。

3 次回日程（令和6年1月25日（木））

学長から、次回日程の開催時刻については、改めて各委員のご都合を伺いたい旨の連絡があった。

以上